



きよかわむら

社協だより

2018

10

No.206



運動会を 観に来てね

緑小学校5年生が
デイサービスを訪問

デイサービスの利用者に緑小学校運動会に来てもらおうと9月19日、同校5年生が運動会の案内をしに村保健福祉センターひまわり館を訪れました。これは5年生の総合学習で、デイサービスの利用者との交流の一環として行われたものです。

当日は、児童が運動会のプログラムが書かれた5年生手作りの模造紙を広げ、競技の見どころをわかりやすく説明。利用者は興味深そうに聞き入っていました。「皆で一生懸命やりますので皆さん観に来てください」との5年生からの元気な呼びかけに、「頑張っってね」と利用者から拍手と励ましの声が上がっていました。

10月号 おもな内容

- 特集 児童擁護施設 2P
- 村緑ことぶき連合会、あおぞら保育園にご招待 3P

- 災害ボランティアセンター運営スタッフ養成講座 3P
- ふれあい昼食会 3P
- 社協からのお知らせ 4P



児童養護施設

さまざまな家庭の事情により、家族と暮らせない子どもたちが生活する児童養護施設。現在、全国に約6000施設あり、2歳から18歳までの子ども約3万人が生活しています。今回は、愛川町半原にある児童養護施設『手まり学園（藤木隆宣理事長）』の藤木宏子施設長に施設の概要等について伺いました。



藤木宏子施設長

Q どのような子どもが入所しているのですか。

A 保護者の不在、虐待、入院、離婚等、家庭における養護が困難で保護を必要としている2歳から概ね18歳までの子ども41人（平成30年9月末日現在）が入所しています。

Q 子どもたちの1日の生活はどのような感じですか。

A 学校のある日は普通の家庭と変わりありません。学校に行って、帰ってきたら宿題と明日の準備、その後は夕食の時間まで自由に過ごしています。小学生のみ17時から職員が指導者となり公文教室を行っています。一方、高校生はスマートフォンを持ちたかったり、将来に備えて貯蓄をしようとほとんどの子どもがアルバイトをしています。

Q 行事などはありますか。

A バーベキュー、県内の施設対抗卓球大会、夏にはキャンプをしています。また、9月には手まりパーティ（学園祭）を行っています。年に1回なので、退所者や地域の方々にも手紙などで参加を呼び掛けています。

Q 子ども達は施設の生活をどのように考えているのでしょうか。

A 初めのうちは、自分はどうしてここへ来たのだろうという不安や親に対するいら立ちを持っていると思いますが、ここで職員と普通の生活を送っていく中で安心感を持って暮らしていると思います。一方で、集団の力関係による喧嘩などに家庭とは違う窮屈さを感じていると思います。

Q 子どもたちは原則18歳で施設を出ることになりますが、退所後に子どもたちを支援することはありますか。

A 生活の中で不安があったり、寂しくなるとよく電話が掛かってくるので様子を伺うようにはしています。逆に退所後、親御さんと同居している子どもについては、こちらから連絡をして最近の様子を伺っています。また、年末にはたくさんの寄付物品をいただくので、お米を入れて送るなどの支援をしています。

Q 最後に、村民の方へメッセージをお願いします。

A 清川村からは近い場所にあるので、気楽に足を運んでいただければと思います。ボランティアさんは大歓迎。現在の職員体制では対応できないこと、例えば手芸だったり花壇の手入れだったり、あるいは夏のキャンプの山案内、川案内などを、子どもたちと関わりを持ちながら教えていただくと非常に有難いです。



事務所のある建物と6つの小舎があります



小舎では7～8名の児童が生活しています



施設内にある公文教室

園児のかわいさに元気100倍！

～あおぞら保育園が

村緑こことびき連合会を招待～

お年寄りの敬老をお祝いしようと9月21日、あおぞら保育園が村緑こことびき連合会会員を招待しました。これは、毎年回園が実施しているもので今回で8回目。この日は、園児による歌や踊り、手遊びなどで楽しいひと時を過ごしました。また、園児が、全員で分担して作り上げたうちわを、訪問した会員4人へプレゼントしました。会員は、「子どもからたくさん元気をもらった。これから頑張ります」と笑顔で話していました。



現場での冷静な判断と対応がカギ

～災害ボランティアセンター

運営スタッフ養成講座～



9月19日、村保健福祉センターやまびこ館で災害ボランティアセンター運営スタッフ養成講座が行われ、今年度の受講生4人の外、前年度までの修了生9人が参加しました。この日は最初に、平成28年4月に発生した『熊本地震』の際に立ち上げられた『西原村災害ボランティアセンター』へ派遣された海老名市社会福祉協議会職員岩澤剛さんからセンターでの活動報告をいただきました。岩澤さんは、「被災者と活動ボランティアのニーズをマッチングするのが難しかった。現場での冷静な判断と対応が重要です」と話されました。その後は、災害ボランティアセンターの運営の流れを参加者全員で確認しました。

お赤飯がおいしかった！

～ふれあい昼食会～

9月6日、村保健福祉センターやまびこ館でふれあい昼食会が行われ15人が参加しました。この日は、敬老をお祝いしてお赤飯が振舞われました。冒頭、もみじ会の山口会長から



「気持ちを込めて作りました。いつまでもお元気でこの食事会に参加してください」とあいさつがあり、会場は笑顔に包まれました。参加者は「お赤飯がとてもおいしかった」「いつもボリューム満点の食事を有り難う。健康に注意してずっと参加したい」と話していました。食後は、体操で体を動かし、その後、全員でスカットボールを楽しみました。



共同募金運動がはじまりました

赤い羽根共同募金 10月1日～31日

年末たすけあい運動 12月1日～31日 (清川村では、11月中旬より募金活動を開始します)

「赤い羽根共同募金」は、さまざまな地域福祉の課題解決に取り組む民間団体を支援する運動として、市民主体の運動を進めています。赤い羽根共同募金は、市民自らの行動を応援する、「じぶんの町を良くするしくみ」です。

「年末たすけあい運動」は、新たな年を迎える時期に、社協や地域の団体等の関係機関の協力のもと、支援を必要とする人たちが地域で安心して暮らすことができるよう、住民の参加や理解を得てさまざまな福祉活動を重点的に展開するものです。

みなさま、ご協力よろしく申し上げます

平成30年度 第2回 福祉のしごとフェア

『福祉・介護の仕事が見える！見つかる！しごとの内容、職場の個性がきける！話せる！』をテーマに『福祉のしごとフェア』を開催します。

日時 平成30年10月21日(日)

午前10時30分～午後4時00分

【就職支援ガイダンス】10:30～12:00

会場 ホテルプラム(横浜駅より徒歩約10分)

内容 福祉施設の種類、仕事の内容をわかりやすく説明します。

【就職相談会】13:00～16:00

会場 横浜駅西口タカシマヤローズホール(横浜駅より徒歩約6分)

内容 求人募集のある法人(93法人予定)が参加します。

お問い合わせ及びホームページ

神奈川県社会福祉協議会かながわ福祉人材センター

☎045-312-4816

ホームページ <http://www.kfjc.jp/>

寄付をありがとうございます

平成30年8月～平成30年9月

○厚木市建設業二世会様(他3団体)

50,000円



厚木市建設業二世会様等より、厚木あゆまつりに出店し、そこで得た利益から社会福祉のためにと本会にご寄付をいただきました。

回収にご協力ありがとうございます

平成30年8月～平成30年9月

- ペットボトルキャップ 8件
- 古切手 5件
- 使用済みプリペイドカード 0件

はあと うおーむ

2ページで紹介しました児童擁護施設「手まり園学園」に取材に行ってきた。施設長を始め職員の方々が色々と工夫をしながら子どもたちの生活を支えているのがよくわかりました。多くの方に児童擁護施設を知っていただき、子どもたちの成長に手を貸して欲しいと感じました。

編集・発行

社会福祉法人

清川村社会福祉協議会

〒243-0195

神奈川県愛甲郡清川村煤ヶ谷2220-1

清川村保健福祉センターひまわり館内

電話 046(287)1118

FAX 046(287)2013